

伊太利とこころぐ (二二)

瀧川 規 一

【ボロニア博物館】 相互に對峙の姿をとつて吾邦京都の春舉、栖鳳と云ふ位置を占めて居たコスタ(Costa)とフランチャ(Francia)の繪を求める。コスタの筆になるものには聖ペテロが王座に坐し手に羅馬教會の模型を支へ兩側に聖フランシスと聖アントニオとが侍立してゐる繪があるフランチャの繪になると肉體美に豐潤を加へて來て居る。

フランチャの筆になるものに聖マリアが裸體の基督を膝の上に立たして王座に坐し左右に聖者六人が侍立してゐる繪がある。また聖者四人が侍立せる繪もある。更にマリアが赤ん坊の基督を拜んで居る繪がある。

カラッチ (Carracci) の折衷派の畫になるとマドンナ及び幼兒の基督の顔が現實味を帯びて

伊太利とこころぐ

來る。立てるマドンナが幼兒を抱いて聖フランシスと聖ゼロームを侍立せしめ、フランシスが幼兒の手をとつてあやせる繪に至つては母子の顔が相似て居るのを看取せしめる。この相似點が折衷派の特徴の一である。基督の顔が如何にも腕白小僧であり過ぎて、愛らしきマリアの顔と不相應であつたりするのが折衷派以前の畫家の特徴である。同じくカラッチの筆になる繪で王座に坐せるマドンナが基督を抱いて居り聖ドミニコ、聖フランシス、聖マリア、マグダレナ、聖キアラの諸聖によつて崇拜されて居る繪を見る。いたいけな基督の顔と若きマリアの顔とが觀者の眼を惹きつける。基督昇天の圖に至つては天空に飛翔する基督、地上に驚倒せる諸聖共に活躍其ものを表はせるものであつて、構想の

偉大さと筆致の勇勁は實に印象を深くする。この博物館に異彩を放つ他の作家はギド・レニの繪である。僧正アンドレアの肖像、ギドの母親の肖像は各其特性を發揮し殊に老母の溫い優しい分別顔を見る時幸福なる小供よとギドを呼びたくなる。薊蕪の冠を戴けるキリストの顔に至つては世界各國の教會に複寫され三才の兒童と雖も知れ馴れて居るものである。有名なるこの基督の顔の原畫だけでもボロニアの博物館を訪れる價值がある。幼兒殺戮の繪がある。愛兒を抱いて逃げ惑へる若妻、死せる小供を見て絶望の禱を天に捧げてゐる婦人等六人の女を描いてゐる。何れも丸ぼちやの若き女性であり何れも姉妹でないかと思へる程にどこやらに似た處がある。肉附きのよい肥えた處に魅力がある。殺戮の悲慘を感じしめるよりも寧ろ悲愁の美容に筆の魅力を集めてゐる。伊太利及び西班牙に行けばこのタイプの美人を今日でも見受ける。小供を抱いてゐるが婦人の顔は或は産の苦を知らぬ人の顔である。

數多き名畫に飽食するうちにも印象の鮮かさを永く留めるものはエリザベタ・ヴィゲー・レ・ブルンの筆になる娘の繪である。花飾りを頭に巻き長髪を房々と垂らし顔を横にむけてゐる繪であつて畫家自らの娘であると云ふ。巴里出身の畫家であつて十八世紀後半より十九世紀前半まで生きてゐた人である。従つて小娘のあどけなさは今日の日本でも時偶には見受けるやうな可愛い顔をしてゐる。誰しも好む顔と見えて、繪畫の本には屢見受ける處のものである。

【フロレンス行】アルノ(Arno)河畔の古都フイレンツェ(Firenze)とはフロレンス(Florence)即ち花の都の意である。フイレンツェに行く旅の日程が近づくときも空に憬れの胸は動悸さへ覺える。藝術文學の泉を汲むには餘りに泉が大き過ぎる。一生に再び訪れ得る機會がなかり可しと思ふと一木一石の細節も見逃したくない心地がする。短日月の間に所期の目的を達し得るか否やを危ぶむ。ともあれ種々なる希望を抱いて花の都入りをなすことになつた。

十三世紀にゲルフ黨(Guelphs)とギベリン黨(Ghibellines)とが擡頭し互に鎬を削つて争ひ、詩聖ダンテの時代に及んだことは神曲研究者の知る處である。一三〇〇年にはダンテは死刑の宣告を受け一三〇二年にはフロレンスから追放され其財産は沒收されてゐる。彼の追放以前に出來上つたのは新生(Vita Nuova)である。散文物語の形式をとつてベアトリチエ(Beatrice)との神秘的な戀愛を語つて居る敍情詩集である。有名なる神曲は彼の追放後の作品である地獄淨罪天國の三界を通じてダンテの案内役をつとめる者はベアトリチエである。ベアトリチエとダンテとが會見の橋の上を描いたのは後世畫家の空想である。ダンテの追放後はヴェローナ(Verona)とラヴェンナ(Ravenna)とに餘生を送り殊にラヴェンナは終焉の地となつてゐる。フィレンチエには一二六五年の五月に呱呱の聲を擧げたと傳へられて居る家がある。美人のベアトリチエの家と云ふのが其横側に接してゐる。ベアトリチエの家の壁には二階若くは三階位の

伊太利と云ふ

高さの處に小窓が附いてある。ダンテの家の下窓からはよく見える。現存のダンテの家は光線がよくとられず薄暗い室内であり小さき工場か若くは夜學校式のものに利用されて居る。案内のお爺さんとお婆さんが説明を詳しくして呉れる。ダンテは放蕩者だ。ダンテには歴とした妻君があつた筈だ。然るに隣家の娘に見染めるなどとは怪しからぬ、ねお婆さんとお婆に向つてお爺さんは駄目を押す。お婆さんは苦笑してゐる。日本人がよく訪問して來る。日本人は好きだと云ふ。何が好きか邦人のポケット・マネが好きかとさへ疑つたのは自分の神經過敏であつた。畫家の空想になる見染めの橋に行く。一人の老婆が小さい店を出してダンテ、ベアトリチエ兩人の顔を銅版に刻したものを記念物として鬻いでゐる。序でにラファエロとその愛人フォルナリナのも賣つてゐる。ダンテ一人の戀でも澤山な研究材料を供給してゐるのに、計らずも一組が増した。先づダンテ式戀愛觀から始める。

【ベアットリス・ボルチナリ】ベアツリチエの六百年祭がフロレンスで行はれた。驚いたのはダンテ研究者である。此佳人の史的存在を疑つてゐる者にとつては殊に呆然たらざるを得ない。この佳人の存在を尤もらしく書いてゐるのは十日物語の作者ボッカチオ(Boccaccio)である。ダンテの父は詩人ダンテが九歳の時ボルチナリ(Portinari)家で催された五月一日の祭に子供を連れて訪問した。其時ダンテはその家の娘ベアツリチエを初めて見た。時に娘は八歳であつた。この時ベアツリチエは少娘と云ふよりは天使であると云つた方が一層適してゐる。これはボッカチオの言ふ處である。九歳と八歳の兩人がこれで相識るやうになつたとしてもその後の兩人の消息に關しては傳ふる處がない。ダンテ自らの心的經驗を傳へてゐる「新生」では何を述べてゐるか。この時愛は彼の全心を占有しベアツリチエが死するに至るまで崇拜した、而かも動搖無き無言の崇敬を以てした。街路で彼女と行交ふこと、彼女から會釋を受けること、彼女の

心に秘めたる喜樂憂愁を未だ緊密ならぬ兩人は心の隔を置いてであるが常に同情する。これがダンテの靈火を燃やし心情の躍動を續けるに充分であつた。遂に一二九〇年に光榮あるベアツリチエは常に口に絶たさなかつた聖母マリアの膝下に召されたのである。これはダンテ自らが述べてゐる言である。これで三段論法の前提と結論とがある。芝居ならば序幕と終幕とがあるだけである。肝心の中幕は後世人の想像に委せなければならぬ。若き兩人が互に語り合つたことも、疑の餘地なしと想像されて居る戀愛についてもダンテは一言も述べてゐない。反對の事實として考へられる點はベアツリチエが現實の婦人としては餘りに學者であり餘りに神々しい點である。ダンテの作品である「饗宴」(Convivio)中に現はれて居るベアツリチエは哲學者である。神曲の天國篇にあるベアツリチエは神の智を體現してゐる超人である。ダンテには猛烈なる勉學の時期があつた。それでないと神曲に現はれてゐるあれ丈の澤山な書籍を読み或は

知り得ない。それに政治的活動があり追放があつた。尙復正當なる結婚をなし四人の小供まである。彼の云ふが如く現實には或る隔を置いて彼の十歳の時から廿五歳の時に至るまでベアツリチエを常に胸奥の偶像として崇め込んで居たであらうか。ダンテの性格を神曲其他の作品を通じて判斷し得る處によると、嚴格な人であり精確を期し物事に曖昧を許さぬ性質であつた。

論理的であり事實に忠實ならんとを心掛けた人であつた。これ等の諸點より推してダンテが自らが述べ、他人が推測する愛の對照は何れまで眞實なりやと疑はれる。疑つた結果ベアツリチエは一人の婦人であつたことさへ疑はれる。或は詩人の胸裡に抱かれた一個の理想であり寓話ではなかつたか。この怪疑説を抱いたのは多くの神曲疏註家の一派である。デアン・マリア・ファイルフォ(Filosofo)が最初の怪疑者であり續いてロゼッチ(Rossetti)ベーロ(Barlow)トムリンソン(Tomlinson)等牧擧に違がなう。

印象論を楯にとつてダンテ、ベアツリチエ兩

人の戀愛を肯定する者の論義は斯うである。ダンテはギド・カヴァアルカンチ (Guido Cavalcanti) に寄せた十四行詩には愛人の肉體的に存在が無邪氣な心に戀の芽生を作り完き戀の悦を感じしめたと述べてゐる。ダンテの如き哲學的な心に宿された武士道的情熱は散文的性質の人には到底理解出來ない。ダンテは最初から寓話の形式を借りて自己の戀を語り自己の愛人を理想化したのである。「新生」中に與ふるベアツリチエの印象によれば彼女は美しく優雅な婦人である。のみならず靈的に理想化され詩人の至高至深に圍繞された麗人である。生きたる女性以上の宇宙の活體を表現し、詩人にとつては理想の生活を憧憬し至高至純の奮心を喚起せしめる源泉である。幼年期に於て既にベアツリチエを斯く見行く習慣を詩人は得て以來、その愛人が死し自らは幾多の生活上の變遷があつたに拘らず其心的習慣を繼續したのである。故に幾多の疏註家の信ずるが如く一個の表徵物とまでなつたのである。而かも淨罪界を経て天國にて昇天

し行くベアツリチエは彼等の説くが如き表徴物でなくして矢張り依然として一人の女性たることを失はなかつた。

斯う兩方の議論が對立する時何れを眞とすべきか後世人にとつて惑の種となる。ポンテ・ヴェッキヨの橋畔に佇んで兩人の戀愛關係を想起する時自ら心に浮ぶのはリヴァプールの博物館で見たヘンリ・ホリデイ (Henry Holiday) の筆になるダンテ、ベアツリチエ會見の畫であり倫敦のテート・ギアラリ (Tate Gallery) にあるロゼツテイの筆になるベアツリチエの顔である。ダンテの若き頃の顔と老いたる顔とは今フイレンチエで見參に及ばんとするのである。

それではベアツリチエと何故にダンテは結婚しなかつたかそれとも結婚し得なかつたか。史實ではベアツリチエは年若くしてシモネ・デ・バルチ (Simone de' Bardi) と結婚し一二九〇年に二十四歳にて夭折してゐる。ダンテも既に述べた如く結婚してゐる。マレット・ドナチ (Manetto Donati) の娘ジェンマ (Gemma) と結

婚し小供四人を持つてゐた。ベアツリチエに對する戀歌を書き始めたのはダンテが十八歳の頃であり、結婚したのは一二九八年頃であつてベアツリチエの死後九年である。ダンテは何故にベアツリチエと結婚しなかつたのかとの疑問が起る。この疑問に答へる爲めに希臘の理想的愛と中世の基督教武士道的愛とを論じダンテの所謂「完^レ悦」を説明しなければならぬ。

【希臘式の愛】希臘の諸神には男性相互の愛を物語る傳説が到る處にある。ドリアン人種はその住へる山中でこの習慣を發達せしめ彼等が移住する時ペロポネサスまでその風習を傳へスパルタ及びクリト島では社會の一制度となり一定の法律によつて規律を定められ國家がこれを認めてゐた。スパルタでもクリト島でも求愛者を持たぬ青年は社會から尊敬されなかつた。年長者は「鼓舞者」又は「愛人」と呼ばれ年少者は「聞手」若くは「思ひ者」と呼ばれた。戦争が起ると仲の好き兩青年は戦場に連立つて現はれた。國家が定めた細則は澤山あるが要するにこ

の男性交友の制度によつて民衆に軍事的精神を鼓吹し青年に英雄的教育を施し、男性相互の愛情の羈絆によつて男性國民の結果を固めんとすることを目的としたのである。初期に於てはこれ等の交友關係に於て特に忠勤自尊心及び堅實の諸徳の修養に意を用ひ、男性愛は原始時代の希臘の武士道となり男兒の渴仰する處となつたこの制度は結婚制度を排除しなかつた。また社會に於ける女子の位置をも低下せしめなかつたドリテ諸族の建設せる諸國に於ては女子は公の名譽を與へられ自由を享樂し財産に對する權力を持つてゐた。

希臘式の友愛が武士道的精神に富み軍事的性質を帯びてゐたことは多くの神話及び歴史的傳説の證明する處である。例へばヘラクレス(Heracles)と云ふ半神半人の英雄は若き男兒を愛し人道の爲めに身を捧げて、スバルタ及びクリト島の戰士が要求する處の情緒を示した。友愛關係の例を擧ぐるならばセシアス(Theseus)とペイリッス(Peirithous)との友愛、オレステ

ス(Orestes)とピラデス(Pyllades)との友愛、デーモン(Damon)とピシアス(Pythias)との友愛は戰友として死を共にしたので彼等の傳説は友愛ロマンスの泉源をなしてゐる。

斯る男性友愛が社會に如何程の貢獻をなし得たかを見るに、ドリテ族が都市を建設した處に於ては到る處に於てこの種の友愛の爲めに壓制を免れ或は施政に成功し戰場に武勳を樹てた例を見出すのである。例へばアゼンヌの町が悪疫に悩まされたことがあつた。其時クラチナス(Cratinus)とアリストデマス(Aristodemus)の男性愛人が協力して市の難を救ふた。またペイシストラチデ(Peistratides)族が受けてゐた苦役の束縛を解いたものはヘルモデアス(Harmodius)とアリストゲイトン(Aristogeiton)と云ふ兩青年である。テーベス(Thebes)に法律を與へたものはフィロラウス(Philolaus)デオクレス(Diocles)と云ふ友愛者であり、カリトン(Chariton)及びメラニッパス(Melanippus)はアグリゲンタム(Agrigentum)に於て暴政を斥

け、クレオマカス(Cleomachus)は希臘式友愛の情に鼓舞されてカルキス(Chalkis)の町に自由を回復した。其名を列擧するのも煩はしき程に澤山な例がある。哲人プラトールの對話中に一人の對話者は言ふ。「暴君は愛人の前に戰慄する」と。希臘人は友愛を以て自由人の最高の道徳なりとし、優雅にして雄々しき行爲の泉源なりとし、希臘文明の寶なりと見做してゐた。友愛の精神は實に希臘の歴史を左右した。スバルタの諸王及び諸將はドリア族のこの友愛の制度の下に養育されたのであつた。例へばエバメイノンダス(Epameinondas)とアレキザンダ(Alexander)は有名な友愛人であつた。希臘の自由がケロニア(Cheronea)の平野に一敗して消滅した時テーパー人の神聖隊(the Sacred Band)は最後の一人に至るまで倒れた。この隊の人々は皆友愛關係にあつた人々であつた。彼等が戰場に死の枕を並べた時、遺憾を見たフィリップ(Philip)は號泣して叫んだ「これ等倒れた勇士等が耻づ可きとをなし或は耻辱を受けたと思ふ者は滅びよ」

と叫んだ。これ友愛の至高性を叫んだ聲である。友愛精神の希臘文學に及した影響を見る。敍情詩人ピンダル(Pindar)は悲劇作家ソフォクレス(Sophocles)と友愛人でありピンダルはまた稱揚の歌を作つて褒めてゐたセオクセノス(Theokenos)の腕に抱かれて息をひきとつた。文學以外諸藝術に於ては彫刻家のフェイデアス(Phedias)はオリンピアのデュース(Zeus)の立像を黄金と象牙とで作つてその立像に男性愛人のバンタルケス(Pantarkes)の名を刻した。エースキラス(Aeschylus)は「アキレスの愛人」(Lovers of Achilles)及び「ミ瑞安」(Myrmidons)と題する悲劇を作つて勇士アキレスがバトロラス(Patroclus)に對して抱いた友愛を描き大に人氣を博した。阿典府の雄辯家であり政治家であつたソロン(Solon)デモステネス(Demosthenes)エスキネス(Eschines)等はこの友愛を同僚の政治家及び雄辯家の間に告白して耻かしとせず却つて人生の最高の喜悅なりとし意氣昂然たる熱狂の泉であるとした。

然し斯る變體性に傾き易き友愛が法則によつて律せられず道德化してゐないアゼンスにては稍墮落の傾向をとつた。ソクラテスは墮落せる青年の純情を救はんと欲してこれを利用して青年の精神を救ふ道を開き以てプラトンの神聖なる理想愛の哲學的觀念を創めしめるに至つた。

新著紹介

○國民世界地理 下卷

藤田元春著 四六版五七三頁

十二頁 圖版二七葉 富山房發行 九月

定價二圓二〇錢

期待されてゐた國民世界地理下卷が新裝をこらして出た。この卷にはヨーロッパと南北アメリカとが記述されてゐる。上巻と同じく主としてブルツクスの「世界」に依り、日本人の立場として或る細かい部分は省き、政治的又は國家的の記事の不足を補つてある。圖版の多いと共に挿圖の數が二一九の多きに達してゐるのは賑はしきことである。記事は國民の讀むに適する様にやさしく書いてある。初版である爲め誤植、殊に地名等の固有名詞の横文字の間違ひが少くない。再版の時の改訂を希望する意味で注文を擧げて見ると地質の記事の譯語や理解が不充分であること、地名の讀み方にいかゞはし

新著紹介

いものがあること、飛んだ思違ひが稀にあることなどである。二五頁のアイランドの馬鈴薯の記事や一四三頁の偽造バタをマーガレットと書いてあることなどは後者の例で御愛嬌ではあるものゝ直して欲しいことである。とは云ふものゝ地誌を一般の讀物とする隨分厄介な仕事をされた著者の精力は敬服に値する。江湖は讀み易い地誌を獲たことを有難がらねばならぬと思ふ。(S)

○日本・風土と生活形態

(航空寫眞による人文地理學的研究)

小田内通敏著 二四冊×二九冊寫眞版三五葉圖版說明一二頁 東京鐵塔書院發行

八月 定價二圓五〇錢 特製五圓。

風土と生活狀態の認識は航空寫眞の考察によつて實現されるといふ見地から陸軍航空本部並に下志津陸軍飛行學校の撮影にかゝる航空寫眞二萬餘枚の中から選擇した五十三個の寫眞を三十五圖版に複製し之に略解を附したものが此の空前の出版物である。從來新聞社から出版された航空寫眞帖の幾つかはあつたが、地理學的見地に立つて編纂されたものはなく、學問上甚だ遺憾だとしたものであつた。然るに本書は寫眞銅版なるにも拘らず印刷鮮明にして學的嗜好を滿喫するに足るの價額の低廉なものと相俟つて日本地理學の一慶事であることに先づ著者の序説の一部を摘記して本書の抱負を傳へるのは徒事でないかと考へる。日本の風土は島國で且つ山島であることゝ季節風帶に在るといふことによつて特徴付けられ